

東京のまちづくり

- 特集1** ・台風シーズンに向けてもしもに備えよう
～河川における水防災情報の活用～
- 特集2** ・木造住宅密集地域を改善する、命を守るみち
～特定整備路線の整備推進～
- 特別特集** ・旧古河庭園「春のバラフェスティバル」
・小石川後楽園「花菖蒲を楽しむ」



No.203(5・6月号)は、令和8年3月31日時点の情報に基づき作成しています。

台風シーズンに向けて もしもに備えよう



～河川における水防災情報の活用～

① 水防災総合情報システム※1

本システムでは、水防災情報をより分かりやすく発信するため、都内の雨量、河川水位、調節池の貯留率、氾濫危険情報、河川監視カメラ映像※2等をリアルタイムに配信しています。
大雨により川が溢れるおそれがある場合や土石流・がけ崩れの危険性が高まった場合には、氾濫危険情報や土砂災害警戒情報等を発表します。

※1：アクセス方法
PC版：<https://www.kasen-suibo.metro.tokyo.lg.jp/im/uryosuii/tsim0102g.html>
スマートフォン版：<https://www.kasen-suibo.metro.tokyo.lg.jp/s/tsim0401g.html>
※2：5分更新の静止画ですが、24時間前まで遡ることができます。



② 東京都水防チャンネル (YouTube) ※3

都内の河川では、集中豪雨などにより急激に水位が上昇することが多いため、YouTubeを活用した河川監視カメラ映像のライブ動画配信を実施しており、河川の状態をリアルタイムで確認できます。

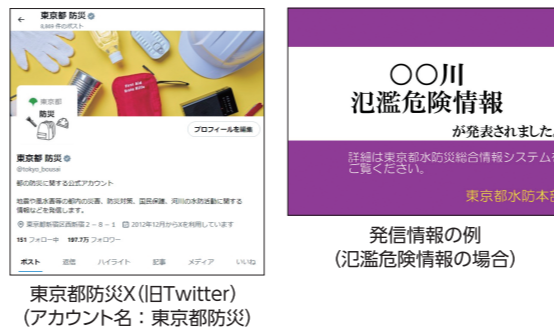
※3：アクセス方法
URL：<https://www.youtube.com/@TokyoSuibou>



③ 東京都防災X (旧Twitter) ※4

都の水防に関する情報をX(旧Twitter)でも発信しています。河川の氾濫危険情報や土砂災害警戒情報などの水防情報を画像とテキスト形式で迅速に視覚的に分かり易くポストしています。
大雨時における避難行動にお役立てください。

※4：アクセス方法
URL：https://twitter.com/tokyo_bousai



雨が降り出したら

- 台風や集中豪雨などの大雨時に川の近くに向かうことは大変危険です。パソコンやスマートフォンなどにより水防災総合情報システムや東京都水防チャンネルを確認し、川の状況をご確認ください。
- テレビやインターネットなどで最新の気象や災害に関する情報を確認してください。
- 周囲の状況に注意し、普段と異なる状況に気が付いた場合には、直ちに安全な場所に避難してください。

川のフォトコンテスト2026

作品募集

東京都では、毎年7月の河川愛護月間関連行事として「川のフォトコンテスト2026」を開催しています。
募集要項をご確認の上、奮ってご応募ください！

募集テーマ 東京の川の姿や川の魅力、川への親しみ・愛着を表現した都内の川の写真

- 応募締切 令和8年6月14日(日)(当日受信有効)
- 応募規定 JPGデータ(10MB以内)で1人2作品まで
未発表・未応募作品
著作権・肖像権等で第三者の権利を侵害しないもの。
過去に撮影した写真も応募可
- 応募方法 応募フォームにてご応募ください。
<https://logoform.jp/f/d7PQx>

応募作品は、パンフレットやカレンダー等の印刷物や広報グッズ、東京の川に関するPR活動に活用させていただきます。
詳細はホームページをご確認ください。
https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/river/keihatsu/photo_r8

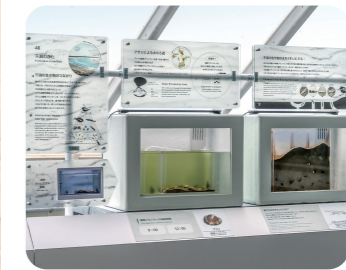


「川のフォトコンテスト2025」【最優秀賞】夜都を駆ける輝



「川のフォトコンテスト2025」【優秀賞】朝景多摩川

問合せ先 河川部計画課 TEL:03-5320-5425



「干潟の浄化」水槽



ニホンスナモグリ

見えない世界をのぞいてみる ニホンスナモグリの展示

葛西臨海水族園 飼育展示係

「東京の海」エリア2階に「干潟の浄化」水槽があります。水や泥のなかの有機物が多すぎると、ほとんどの生き物はそこで生きていけなくなってしまいます。干潟には、エサを食べたり砂を掘ったりすることで有機物を減らしている生き物がたくさんおり、海が「きれい」になっています。この水槽では、そのような生き物による浄化機能を説明しています。展示している生き物のうち、今回はニホンスナモグリについて紹介します。

ニホンスナモグリは全長6cmほどの甲殻類です。深さ30cmほどの巣穴を掘って、泥とともに泥の中の細かい有機物を食べてくらしています。また、巣穴を掘ることで泥の中に酸素がいきわたり、有機物を分解するバクテリアの動きが活発になります。

ニホンスナモグリは巣穴から出てくることはなく、干潟でもほとんど出会う機会はありません。展示では、巣穴の径に合わせた薄型の水槽で、巣穴の断面を真横から観察できるよう工夫しました。はさみ脚で砂を抱えて巣穴を掘り進めたり、狭い通路を器用に転回したりする様子が見られると思います。

普段は決して見るできない巣穴の中での動きを、ぜひ観察してみてください。

動物園の「かお」 井の頭自然文化園 トウキョウダルマガエル



仙台平野から関東平野にかけて生息しているカエルです。かつてはトノサマガエルと呼ばれていましたが、研究が進み、別種だとわかりました。都内では生息環境の悪化により数が減少しているため、当園では繁殖に力を入れています。

水から顔を出すトウキョウダルマガエル
令和8年1月4日撮影